

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	馬込ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。この【オノマトペ】は2歳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が、動物の こえの ことを ききました。「この どうぶつさん、なんてなくかしってる?」「どうぶつえんで、どんな こえで ないてたか きいたこと ある?」「リゼインせんせいは えいごの せんせいだよね。えいごでも おなじ こえかな?」
すると 子どもたちは、「リゼインせんせいは えいごしか はなせないんだよ。」

【流れ】英語講師が来園する日には、動物の鳴き声が出てくる英語の歌を楽しんだり、本物の鳴き声を図鑑で確認します。その活動には、保育者も子どもたちと一緒に加わります。また、自由遊びの時間には、保育者が日本語で動物の鳴き声を取り入れた歌を歌い、英語講師も子どもたちとともに楽しみます。さらに、英語活動で使用している絵カードを使って、みんなでオノマトペ遊びも行います。このように、子どもも保育者や英語講師も一緒に、日本語と英語それぞれのオノマトペに親しみながら共有しています。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

* 図鑑：2歳児クラス * 歌：2歳児クラス * カード遊び：2歳児クラス

【振り返り・共有】毎月末には、英語講師と職員で打ち合わせの時間を設けています。その中で探究活動の様子や成果を共有し、翌月に向けた問いを検討するとともに、環境設定や活動計画、スケジュールについて意見を出し合います。また、保育者同士も職員会議の場で実践を振り返り、気づきや課題を共有しながら今後の保育に生かしています。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：オノマトペ絵カード

* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「アイアアオー」の歌詞では、よく耳にしていたので元気に歌う事ができていた。歌詞に様々な動物が出てきていたので鳴き声また動きの真似をしていた。間奏の時は腕を振ったり、身体を揺らしたりとリズムにの乗り楽しむ姿が見られた。また、以前より「ゆかいな牧場」の歌は聞いていたので親しみがあつた。曲のテンポも変更し、遅くした事により子ども達の歌うテンポになっていた。

4 -①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

歌詞が繰り返し出てくるところでは、英語講師の真似をしてして動作を行う事が多かった。特に「アイアアオー」の歌詞は人気があり笑顔で歌う子どもの姿があつた。日本語と英語では動物の鳴き声が異なり、戸惑う姿も見られた。

どうしても、日本語での鳴き声になってしまう。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみた。日本語と英語の違いというより、日本語の歌と英語の歌でテンポが異なっていたことで、子どもたちにとっては同じメロディという認識は薄かったかもしれない。日本語の曲のテンポが速くまた、言葉も何回か繰り返しが多かったため、初めから曲のテンポも遅らせ曲も短めにして聞き、歌ったので子どもが覚えやすかった。英語の歌は動物の絵カードを見せながら歌ったことで、動物がわかり自分達で鳴き声を言っていた。絵カードという視覚での表現も加えることで、子どもたちは楽しく歌がうたえた。

【次回への問い】英語でも日本語でもなく、実際の動物のなきごえを聞いたときに子どもはどのように反応するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・英語講師を見ながら、動物の鳴き声を真似していた。「ミャーミャー」
「ウホウホッ」とゴリラの真似をしたりと楽しい中に様々な動物の名前と鳴き声を覚える子どもが多くいた。初めて目にする動物また、英語での鳴き声の違いなど興味深く見て聞く姿が感じられた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】通常の保育の中でも動物が多く出てくる絵本は多いが、鳴き声になると言葉で聞くだけになり、このような鳴き声図鑑を多くクラスにあった方が良かったと思った。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>③保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

カードが出てくる前に"Show me please."と英語で発話していた。カードを見ながら日本語「どンドン」「boom boom」「どきどき」「aaww」は擬音語・擬態語を言いながらジェスチャーを真似していた。「ごくごく」「gulp gulp」では手でコップを作り水を飲む動きをしていた。「ぶんぶん」「zzz・・・」では蜂の動きを楽しそうに真似ていた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】英語、日本語、擬態語、擬音語など全ての事に興味を示し楽しく参加する子が多い。英語の教材など今後も取り入れ英語に親しんでいきたいと思う。

【次回への問い】今回の振り返りから、音と言葉を結びつけて楽しむ活動をさらに発展させていきたい。日本語の「ぴょんぴょん」「ざあざあ」などの擬音語・擬態語に、英語の「jump jump」「pitter-patter」などの表現を合わせ、絵カードや動きを通して親しめるようにする。日英の言葉を結びつけながら繰り返し遊ぶことで、音と言葉の違いに気づけるようにしたい。また、声に出したり体を動かしたりする中で、表現する楽しさを十分に味わえるよう援助していく。